

オ一話

二〇三〇年一

科学省精密機械局では「超ロボット」の南
発に、もう四度も失敗していった。

科学省長官天馬博士の家へ、スカンクとい
ふ名の不気味な男が現われ、人間と同じ理性
をもつロボットにぬ、オメガ因子という回路

が必要で、それを提供しないと申し出る。し
かし天馬博士は拒絶する。

天馬博士はロボット開発に専念するあまり
、息子のトビオにっしては放任しっかたしな
った。トビオは父と遊園地へ行く約束をほご
にされ、一人で車に乗って出掛け、交通事故
にあり、死んでしまった。

博士は悲嘆と反省の末、気が狂った。そし
て、次につくる超ロボットを、トビオそっく
りにつくることに決め、作業の開始された。

が、例のスカンクは、ロボットカメラを使う
て設計図をぬすみ出した。彼は、友人のロボ
ット学者ワルプル・ギス伯爵にその複製をつ
くらせ、オメガ因子を組込もうと考えたのい
ある。

科学者トピオのロボットが完成したのと
、ワルプル・ギスの邸でトピオの複製—
ダイロスと名づけられた—が生まれたと
偶然にも同じ夜だった。

トピオとダイロスは、それぞれの邸で、人
間としての教育をうけた。

ギス伯爵は、ダイロスに殊死ににくしみ
、暴力を教えた。しかし、ダイロスは
、戦慄のもつ冷酷さのほか、ふと人間的な暖
かい心がめかえるのを、消すことができな
かつた。彼は伯爵の小間使いのロボット、グラ
ラと仲よくなつた。ところが伯爵は、クラ
ラに乱暴をして、こわしてしまつた。

にくしみをたぎらせたダイロスは、ワルプ
ル・ギス伯爵を邸の窓からつきおとし、自分

はクラウを抱いてどこへともなく逃げて行った。

一方、トビオは、本物をつくりしつけられたが、ロボットがすこしも生長しないことを知った天馬博士は、狂った頭でトビオの愛情を憎悪にかえていつか、ある日、船の中で博士はついにトビオに「息子をゆらい、出て行け」となった。そこは居あわせの口ボット・サーカス団の団長ハムエツグは、追いかざれてしおれているトビオを手なづけて契

約してアトムという名で売らせうと決められた。ありしにも、大暴風雨がきて、船は波にのまれ、沈没しようとした。アトムは、父を救うためにぬいめて超能力を發揮して空へとひしり、船を危機一髪で沈没から守った。

ハムエツグは、アトムをトランクの中へかくした。船を救ったのがトビオだったことを知った天馬博士は必死に息子の姿を求めて船内を探すが、すくには、エネルギーをぬかれたアトムには父の声は通じなかつたのだ。

鉄腕アトム

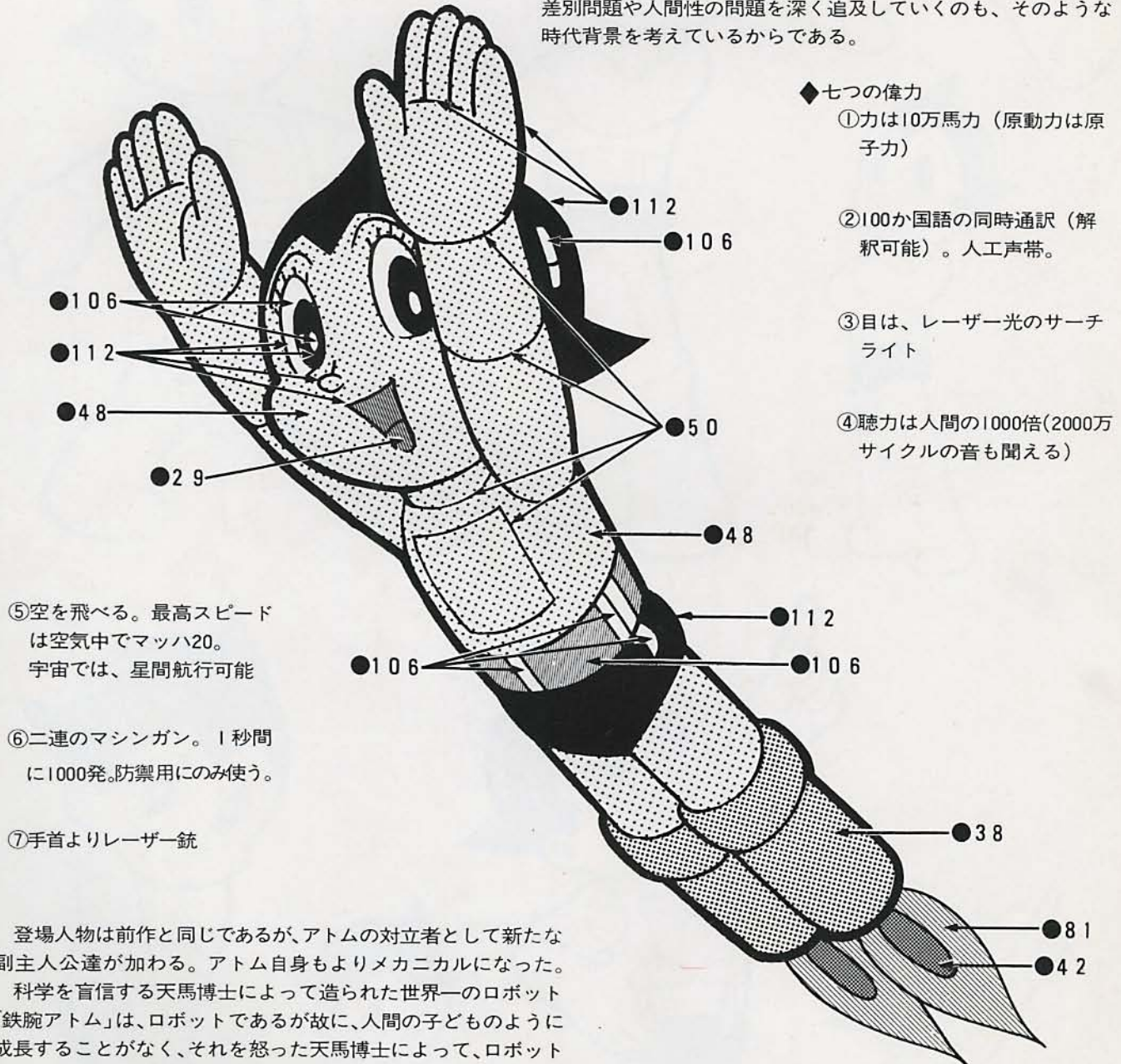
株式会社 手塚プロダクション

〔ストーリー〕

21世紀初頭の世界。平和な世界連邦への統合をめざして、世界中が激動している。

科学の分野では、電子工学と核物理学の進歩が特に目覚しく、アトム種のロボットが生みだされるまでになっている。しかし、科学と行政のアンバランスは大きく、人間社会にはいろいろな矛盾が山積している。

前作が、正義の味方として科学文明謳歌をテーマとしたのに対して、今回の「鉄腕アトム」は、むしろ科学的合理主義への疑問や警告をテーマとし、そして何よりも、科学技術以前に、差別問題や人間性の問題を深く追及していくのも、そのような時代背景を考えているからである。



◆七つの偉力

- ①力は10万馬力（原動力は原子力）
- ②100か国語の同時通訳（解釈可能）。人工声帯。
- ③目は、レーザー光のサーチライト
- ④聴力は人間の1000倍(2000万サイクルの音も聞える)

⑤空を飛べる。最高スピードは空気中でマッハ20。宇宙では、星間航行可能

⑥二連のマシンガン。1秒間に1000発。防禦用のみ使う。

⑦手首よりレーザー銃

登場人物は前作と同じであるが、アトムの対立者として新たな副主人公達が加わる。アトム自身もよりメカニカルになった。

科学を盲信する天馬博士によって造られた世界一のロボット「鉄腕アトム」は、ロボットであるが故に、人間の子どものように成長することがなく、それを怒った天馬博士によって、ロボットサーカスへ売られてしまう。

アトムは、そこで、いやいやながら仲間のロボット達と闘うことになる。ロボットは、人間の命令にさからうことはできなかったからだ。

新しい科学省長官お茶の水博士によって、サーカスから救い出されたアトムは、人間とロボットの将来を正しく考える博士を尊敬し、人々の幸せのために働くことを誓う――。

舞台は、2030年代の東京。個性豊かなキャラクター達が展開するヒューマンとアクションのドラマである。

色彩指定について

●印の数字は、別添くカラー・チャート>の通しNo.です。着色及び、多色印刷の場合は、必ずくカラー・チャート>に準じて作成して下さい。

手塚治虫